

# 仏画



## 楽田寺の善女龍王図 (県指定文化財)

名称: 絹本着色善女龍王図  
時代: 室町時代

寺号の雨宝龍王院が示すように雨乞い祈禱の本尊として用いられた善女龍王図。中央に龍王、左上方に雷神と雨神、右上方に十一面観音像、右下に弘法大師坐像を配し、漢画風に表しており、明快さと力強さがあります。

## 安楽寺の融通念仏縁起絵 (国指定文化財)

名称: 絹本着色融通念仏縁起絵  
時代: 南北朝時代(14世紀後半)

融通念仏宗の開祖良忍上人の行状とその及ぼした念仏功德の靈験譚をあわせ絵画化した縁起絵。一般的な融通念仏縁起絵は絵巻物であるのに対し、6場面が一幅に仕立てられており、他に例をみない掛幅形式の縁起絵です。



## 千萬院の十一面観音立像 (町指定文化財)

名称: 木造十一面観音立像  
時代: 室町時代(天文10年・1541年)

宿院町(奈良市)に工房を構え、宿院仏師と呼ばれた俗人仏師集団の第一世代である源四郎が棟梁となり造立された十一面観音立像。生硬な顔つきは源四郎の個性を表しており、頭部は前後に、体部は左右に材を寄せ、正中線のくるいもなく姿態をまとめています。その技量は、当代の室町彫刻の中でも高い評価が与えられます。



# 仏像

## 千萬院の不動明王立像 (国指定文化財)

名称: 木造不動明王立像  
時代: 平安時代(12世紀初頭)

本像は、不動明王が本来もつ若々しさを彫り表しており、体形が引き締まって整い、衣部には截金文様が散らされるなど、王朝風の優美さをとめています。現在は、千萬院の客仏的な扱いになっていますが、隆盛を誇った「法貴寺」の一子院にあったと考えられています。

## 安養寺の快慶仏(国指定文化財)

名称: 木造阿彌陀如来立像  
時代: 鎌倉時代(12世紀末~13世紀初頭)

足はその墨書「巧匠安阿彌陀佛」から壮年期の快慶の作品とされている木造阿彌陀如来立像。眼の見開きが強くなく、頬に張りがあるてよくよかな容貌が特徴です。また、流麗な衣文線や像の仕上げに金色をつや消しする粉溜技法を用いているなど、快慶仏の特色がみられます。この仏像は、安養寺の東向かいにあった廃寺「浄国寺」の伝来とされています。



# 指定文化財

いねが いっぱい

今に伝わる貴重な文化財をいくつかご紹介します。



# 古文書

## 小林家文書(町指定文化財)

名称: 小林家文書 時代: 桃山時代~昭和

田原本町の小林家は、江戸時代から明治前期にかけて庄屋などを務めた家で、同家には当該期の田原本の歴史を伝える1132点もの貴重な古文書が伝存しています。最も古い文書は、文禄4年(1595)の「大和国十市郡田原本御検地帳」の写しで、太閤検地時の集落の様子が記されています。これらの多数の文書や絵図により、田原本の形成・発展過程を詳細に知ることができます。



## 補巖寺の納帳(町指定文化財)

名称: 寶陀山補巖寺納帳 時代: 室町時代  
名称: 補巖寺開山支派 時代: 江戸時代

補巖寺に残る納帳は、寺の土地台帳に当たるもので、ほぼ同じ内容のものが4冊残存しています。約45町歩に及ぶ田畠は、十市郡を中心に城上・城下郡に広がり、作主の名前のほかに村落や小字の名称が記載されています。また、世阿弥やその妻の法号である「至翁禅門(しおうぜんもん)」、「寿椿尼(じゅちんに)」の記載があり、世阿弥夫婦が補巖寺で永く菩提を弔われたことが明らかになりました。「補巖寺開山支派」には、補巖寺の歴代住職の系譜が記載されています。



## 本光明寺の十一面観音立像 (国指定文化財)

名称: 木造十一面観音立像  
時代: 平安時代(11世紀後半)

頭と体部の幹部を桂の一材から彫りだし、背中側をくり貫き、背板をあてた構造になっている十一面観音立像。板光背と簡素古様な蓮華台座とも、当初のものが揃っている大変貴重な例です。本光明寺は天理市森本町にあった同寺を、明治7年に廃仏毀釈で廃寺となった勝楽寺跡地に迎え入れたものです。



## 宮古の薬師如来坐像 (国指定文化財)

名称: 木造薬師如来坐像  
時代: 平安時代(9世紀末)

宮古の薬師堂に伝わる等身大の薬師如来坐像。檜の一材でほぼ全容を彫りだした重厚感のあるもので、大きめの頭部はやや面長で頬の張った下ぶくれの特徴がみられます。この仏像の伝来は不明ですが、薬師堂周辺には寺垣内、寺東、大門などの地名が残ることから、寺院が存在したと考えられ、中世には「常楽寺」という大寺院の一堂に祀られていたものかもしれません。





# まちなりの想いを乗せて 走り続ける

1918.4.25  
(大正7年)  
田原本発  
一世紀

# 大和鉄道

現近鉄田原本線

## 田原本鉄道 株式会社の創立

近世に大和川最上流の河港、今里浜を利用した物資の集散地として栄えた田原本は、明治になって衰退を始めます。水運に代わる新しい交通手段となった鉄道の建設に遅れてしまったからです。この状況に危機感を抱いた地元有志は「中和鉄道株式会社」の名前で鉄道敷設を申請しましたが、却下されます。その後、地方鉄道の敷設を推奨するため制定された軽便鉄道法による「田原本鉄道株式会社」を發起。構想から15年を経て、ようやく敷設申請が認められました。

## 大和鉄道と改称 困難を極めた建設工事

大正3年5月から用地買収、建設工事を順調に進め、大正5年末には9割が完成。大正6年「大和鉄道株式会社」と社名を変更しました。開通を目前に控えたころ、第一次世界大戦による鉄材の不足と価格暴騰で、レールの入手が困難になり、深刻な資金不足に陥ります。さらに台風による洪水で橋脚が流されるなど、工事は何度も暗礁に乗り上げましたが、多くの人の尽力で大正7年に開通。開通式が行われた4月25日から2日間は、終日火花が打ち上げられ、町内各所では祇園囃子に合わせて人々が踊り歩するなど、町はじまって以来の大賑わいでした。

## 桜井延長線の開業

構想以来、桜井まで延長することは人々の悲願でした。しかし、国鉄桜井線との関係もあり、申請は却下され続けました。三輪への迂回をやめたコース変更により大正8年ようやく許可されました。その後、奈良盆地を斜めに横断する17.6キロメートル(新王寺〜桜井)の鉄道が完成したのです。生活の足となった大和鉄道は、沿線の人々から親しみを込めて「ヤマテツ」と呼ばれるようになりました。

## 大阪電気軌道の 傘下に入る

桜井までの延長線が完成した大和鉄道は、県外へも進出すべく、桜井〜名張(大正11年)、さらに伊勢までの鉄道免許(昭和2年)を得ましたが、それを実行するだけの経営力はありませんでした。大正14年、県下一円に路線を拡大していた大阪電気軌道(近畿日本鉄道の前身)が、大和鉄道の株式90%を取得。同社の傘下に入り、取得した伊勢方面への免許も同社子会社に譲り渡すことになりました。

## 今も走り続けて 100周年

太平洋戦争が始まると、鉄道路線の施設を他に転用するため、大和鉄道の田原本〜桜井間が廃止路線となりました。終戦後は機関車の老朽化と石炭不足により経営が逼迫。近鉄の経営的技術的援助を受け、昭和23年に電化が完成しました。その後、昭和36年に信貴生駒電鉄と合併。昭和39年に同電鉄が近鉄と合併したことで「ヤマテツ」の名は消えることになりました。鉄道そのものは以降も近鉄田原本線として運行。まちの想いを乗せて走り続けて、平成30年に開通から100年を迎えます。

明治43年12月23日	田原本鉄道(株)発起(事務所は町役場内)
明治45年 7月14日	田原本鉄道(株)創立(総会会場は浄照寺)
大正 6年 1月23日	大和鉄道(株)と社名を変更
大正 7年 4月26日	新王寺・田原本間(10.1km)開業 (軌間 国有鉄道と同じ1067mm 蒸気機関車牽引)
大正11年 9月 3日	田原本・味間間(2.6km)開業
大正12年 5月 2日	味間・桜井町間(4.5km)開業
昭和 3年 5月 1日	桜井町・桜井間(0.4km)開業
7月15日	気動車購入 蒸気機関車と併用使用
昭和19年 1月11日	田原本・桜井間(7.5km)営業休止 (営業廃止は昭和33年12月27日)
昭和23年 6月15日	新王寺・田原本間軌間拡張電化工事完成 (軌間 近鉄標準線と同じ1435mm 近鉄から車両を借り受け電車運転開始)
昭和36年10月 1日	信貴生駒鉄道(株)と合併 田原本線と呼称
昭和39年10月 1日	信貴生駒鉄道(株)が近畿日本鉄道(株)と 合併(田原本駅を西田原本駅と改称)
昭和58年11月30日	佐味田川駅開業

